［巻 頭 言］

質の高い医学・医療関連科学雑誌の発行を目指して

新潟医療福祉学会　理事長
新潟医療福祉大学　医療技術学部　学部長
追　手　　巍

Publishing or Perish! 、いきなり唐突な文章で始まり申し訳ありません。この言葉を初めて知ったのは大学を卒業して４年が過ぎ、基礎研究施設で研究活動を始めた頃です。その当時は論文を書くというよりは、そのための研究データを作り出すことに必死で実験データさえそろえば自然と論文が出来上がって行くものと単純に考えていて、この言葉の重みについては気に留めていませんでした。データ無くして科学論文の草稿などできるわけがないのは当然と考え、研究データを取るために基礎実験に明け暮れている自分に研究者としての像を重ね、満足していたように思います。

このような考え方を大きく変えてくれたのが基礎研究を始めてから８年後に西ドイツ（当時は東西ドイツは統一されていなった)、フライブルク大学衛生学研究所、Arnold VOGT教授の元にアレキサンダー・フンボルト財団の奨学生として留学した時期です。ほぼ２年間の留学期間でありましたが、最初の１年半程で原著論文としてまとめる実験データをそろえることができました。残りの留学期間中に同じ実験系を用いた次の研究テーマのデータ取りに取り掛かっていたその時、VOGT教授が強く私を諭したことは、「論文にまとめ、科学雑誌に発表が決まって、初めて研究が完成する」という内容でした。この時に発表した論文は私のこれまでの研究生活中で最もimpact factorの高い科学雑誌に掲載され、その後の私の研究生活の弾みになりました。この時期以降、論文を発表することを前提として研究を開始するパターンを優先させるようになりました。確かに大学等の研究機関に所属し、アカデミックスタッフとして評価を受けるには、発表してきた論文を通してであることがほとんどです。ノーベル賞授賞、科学研究費獲得、著名な褒賞授賞等も発表してきた関連論文の評価に基づいて決定されるからです。

私共、新潟医療福祉学会誌（英文、和文）の委員を含めた編集担当者は全員、投稿された論文の評価をできるだけ真摯に、客観的に行うため、査読者の選定、評価の具体化のための査読チェックシートの充実、投稿論文の質向上を目指した編集作業に常日頃から取り組んでいます。広い医学・医療領域を網羅する本学の特徴を生かし、その機関誌としての役割を担っている新潟医療福祉学会誌を、日本さらにはアジアにおける代表的な研究発表科学雑誌として発展していけるよう、私共、編集担当者はもとより、優れた論文を投稿していただく皆様と行う共同作業に大きな期待が注がれています。